

横浜みらい日本語学院

2024 年度

自己点検・評価報告書

報告書作成日

2024 年 6 月 14 日

点検対象期間

2023 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日

【自己点検・評価の目的】

教育水準の向上を図り、日本語教育機関の目的を達成するために、活動の状況について、年に1回以上自ら点検及び評価を行う。

【評価】

各項目については、A～Cの三段階で評価する。

- A: 達成されている
- B: 完全に達成されているとは言えない
- C: 達成されていない

1. 教育理念・教育目標

【教育理念】

「多文化共生への人材育成」

今日のグローバル社会の中で、互いの差異を認めつつ異文化を理解し、ともに豊かな社会を築こうとする多文化共生実現へのリーダーが求められている。当校は言語教育を通じ、このような時代の要請に応え、日本国内外を問わず様々な分野で社会貢献できる人材の育成を目的とする。

【教育目標】

- 1) 日本語習得とともに、日本において円滑に生活ができる真のコミュニケーション能力を養います。
- 2) 日本文化と共に多文化にも触れ、異文化理解の能力と寛容性の心を育てます。
- 3) 定期的なカウンセリングによって、自身の学習目標・学習方法などを学生自身が明確に認知する機会を提供し、効果的な自立学習の促進、支援をします。
- 4) 学生の希望する進路に向けて、学生に寄り添い的確な進路指導を行います。

1-1 理念、目標が、社会の要請に合致している。 [A]

1-2 理念、目標が、教職員及び学生に周知されている。 [B]

現状・具体的な取組み／課題

当校の理念、目標は、国際社会における重要な課題であり、社会の要請に合致しています。

「リーダー」というよりは「コミュニティーの中心」的な役割が求められています。

カウンセリング及び必要に応じ、学生と面談をしています。

効果的な自立学習の方法を支援しています。

進路についてのアンケート結果をふまえて、個別面談を実施し、進路指導をしています。

2. 学校運営

- 2-1 日本語教育機関の告示基準に適合した学校運営ができている。 [A]
- 2-2 理念、目標に沿った運営方針や事業計画が定められている。 [B]
- 2-3 管理運営の諸規程が整備され、規程に基づいた運営が行われている。 [B]
- 2-4 意思決定システムが整備され、効率的に機能している。 [A]
- 2-5 授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処している。 [B]
- 2-6 業務の見直し及び効率的な運営の検討が定期的かつ組織的に行われている。 [B]
- 2-7 外部からの情報収集が効率的に行われ、かつ共有化する仕組みがある。 [A]

現状・具体的な取組み／課題

定期的及び必要に応じて、職員会議を開いています。

業務の見直し及び効率的な運営の検討は、必要に応じて行われていますが、今後は、組織を明確にすることが必要だと思われます。

LINE をとおして、外部からの情報収集および共有を効率的に行っています。

3. 教育活動の計画

- 3-1 理念・教育目標に合致したコース設定をしている。 [A]
- 3-2 教育目標達成に向けたカリキュラムを体系的に編成している。 [A]
- 3-3 国内、又は国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にし、レベル設定をしている。 [A]
- 3-4 教育目標に合致した教材を選定している。 [B]
- 3-5 教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、著作権法に留意している。 [B]
- 3-6 教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている。 [B]
- 3-7 教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしている。 [B]

現状・具体的な取組み／課題

日本語教育の参照枠に沿ったカリキュラムを編成しています。

学習進度表を作成し、日報を記入して、LINE で共有し、教育内容及び教育方法について教員間で共通理解を図る努力をしています。教員配置については、非常勤講師の勤務可能な曜日と時間等、個人の事情も勘案しなければならないので、調整が難しいところではありますが、できる限り教員の能力、経験等に応じた配置ができるように努力してきました。

4. 教育活動の実施

- 4-1 授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。 [A]
- 4-2 教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している。 [A]
- 4-3 開示されたシラバスによって授業を行っている。 [B]
- 4-4 授業記録簿および出席簿を備え、正確に記録している。 [A]
- 4-5 学生の理解度・到達度の確認を実施期間中に適切に行っている。 [A]
- 4-6 個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援を行っている。 [B]
- 4-7 特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けている。 [C]

現状・具体的な取組み／課題

テストを実施して、適切なクラス編成をしています。

シラバスの開示が今後の課題です。

学習支援担当者の特定、及び、特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けることが今後の課題です。

5. 成績判定と授業評価

- 5-1 成績の判定基準及び判定方法が明確に定められ、教職員間で共有している。 [A]
教員は基準に沿って適切に実施している。
- 5-2 成績判定結果を的確に学生に伝えている。 [A]
- 5-3 成績判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証し、評価表法が適切であることを確認している。 [B]
- 5-4 学生による授業評価を定期的に実施している。 [C]
- 5-5 授業評価の結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組に反映されている。 [B]

現状・具体的な取組み／課題

成績の判定基準及び判定方法が明確に定められています。

学生による授業評価を、どのように実施していけばよいか、検討を進めています。

6. 教育活動を担う教職員

- 6-1 校長、主任教員、専任教員、非常勤教員の職務内容および責任と権限を明確に定めている。 [A]
- 6-2 教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質を明示している。 [B]
- 6-3 教員及び職員の研修等により教育の質および支援力強化のための取組をしている。 [A]
- 6-4 教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振る舞い、ハラスメント防止等に関する研修等の取組を行っている。 [C]
- 6-5 教員および職員の評価を適切に行っている。 [B]

現状・具体的な取組み／課題

倫理観、振る舞い、ハラスメント防止等に関する研修等は、どうあるべきか、検討を進めています。

教職員の評価は、どうあるべきか、についても、検討を進めています。

7. 教育成果

- 7-1 入学から修了・卒業までの学習成績を記録、保管し、適正に管理している。 [A]
- 7-2 卒業・終了の判定を適切に行っている。 [A]
- 7-3 卒業または修了後の進路を把握している。 [A]
- 7-4 日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握している。 [A]

現状・具体的な取組み／課題

日本留学試験、日本語能力試験、JTEST等の外部試験を受けるように、奨励しています。

結果についても、把握しています。

8. 学生支援

- 8-1 生活指導責任者が特定され、その職務内容および責任と権限を明確に定めている。
担当者が複数名の場合は、責任者が特定され、それぞれの責任と権限を明確化している。 [A]
また、これらの者を学生および教職員に周知している。
- 8-2 留学生活に関するオリエンテーションを入学直後に実施している。 [A]
また、在籍者全員を対象に定期的実施している。
- 8-3 住居支援を行っている。 [A]
- 8-4 アルバイトに関する指導及び支援を行っている。 [A]
- 8-5 健康、衛生面について指導する体制を整えている。 [A]
- 8-6 学生全員が国民健康保険に加入している。 [A]
必要に応じて留学生保険などの加入を勧めている。
- 8-7 重篤な疾病や傷害のあった場合の対応および感染症発生時の措置を定めている。 [B]
- 8-8 危機管理体制を整備し、交通事故や犯罪に巻き込まれた等の相談体制ができている。 [B]
- 8-9 火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所等を定め、避難訓練 [B]
を定期的実施している。
- 8-10 気象警報が発令された際の措置を定め、教職員及び学生に周知している。 [A]

現状・具体的な取組み／課題

留学生活に関するオリエンテーションを入学直後に実施しています。

在籍者全員を対象に定期的な全校集会を実施して、生活指導や支援を行っています。

避難訓練をどのように定期的に行っていくか、検討を進めています。

気象警報が発令された際の措置を、教職員及び学生に完全に周知させることが今後の課題です。

9. 進路に関する支援

- 9-1 進路指導担当者を特定している。 [A]
- 9-2 授業に関わる教員全員が学生の希望する進路を把握し、指導に反映されている。 [A]
- 9-3 進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にある。 [A]
- 9-4 入学時からの一貫した進路指導を行っている。 [A]

現状・具体的な取組み／課題

進路指導担当者を特定し、進路に関わる情報を共有しています。

進路アンケートをとり、支援に役立てています。

10. 入国・在留に関する指導及び支援

- 10-1 入管事務担当者を特定し、その職務内容および責任と権限を明確に定めている。 [A]
- 10-2 担当者は、研修受講等により適切な情報取得を継続的に行っている。 [A]
- 10-3 地方出入国在留管理局により認められた申請等取次者を配置している。 [A]
- 10-4 入管法上の留意点について学生に指導するなど、不法残留者、資格外活動違反者、犯罪
関与者等を発生させないための取組を継続的に行っている。 [A]
- 10-5 在留に関する学生の最新情報を正確に把握し、在留上の問題がある学生への個別指導を
行っている。 [A]

現状・具体的な取組み／課題

入管事務担当者を特定し、その職務内容および責任と権限を明確に定めています。

地方出入国在留管理局により認められた申請等取次者を配置しています。

入管法上の留意点について学生に指導するなど、不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組を継続的に行っています。

11. 教育環境

- 11-1 教室内は十分な照度があり換気がなされている。 [A]
- 11-2 語学教育を行うのに必要な遮音性が、全教室で確保されている。 [B]
- 11-3 授業時間外に自習できる部屋を確保している。 [A]
- 11-4 教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備され、常時利用可能である。 [A]
- 11-5 視聴覚教材、IT を利用した授業が可能な設備や教育用機器を整備している。 [A]
- 11-6 教員及び職員の執務に必要なスペースを確保している。 [A]
- 11-7 同時に授業を受ける学生数に応じた数のトイレを設置している。 [A]
- 11-8 法令上必要な設備等を備えている。 [A]
- 11-9 廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状である。 [A]
- 11-10 校舎面積は「日本語教育機関の運営に関する基準」に適合し、文化庁に届出および受理
されている。 [A]
- 11-11 教室、その他の施設は「日本語教育機関の運営に関する基準」に適合し、文化庁に届出
および受理されている。 [A]

現状・具体的な取組み／課題

遮音性を確保し、近隣に配慮することが今後の課題です。

前年度に比べて、教育用機器が大幅に充実しました。

12. 入学者の募集と選考

- 12-1 理念・教育目標に沿った学生の受入方針を定めている。 [A]
- 12-2 入学志願者に対し、適切な情報提供や入学相談を行っている。 [A]
- 12-3 教育成果を含む正確な学校情報を、入学希望者および経費支弁者の理解できる言語で開示している。 [A]
- 12-4 海外の募集代理人(エージェント等)に正確な情報提供を行い、募集活動が適切に行われていることを把握している。 [A]
- 12-5 入学選考基準および方法が明確化され、適切な体制で入学選考を行っている。 [A]
- 12-6 学生情報を正確に把握し、提出された根拠資料等により確認を行っている。 [A]
不法残留者を多く発生させている国からの志願者に対し、調査を行うよう努めている。
- 12-7 入学志願者の学習ニーズとコースの教育内容が合致することを確認している。 [A]
- 12-8 入学金、授業料、その他納付金の金額および納付時期が明示されている。 [A]
納付金以外に入学後必要になる費用が明示されている。
- 12-9 関係諸法令に基づいた学費返還規程が定められ、公開されている。 [A]

現状・具体的な取組み／課題

入学志願者に対し、適切な情報提供や入学相談を行っています。

正確な学校情報を、入学希望者および経費支弁者の理解できる言語で開示しています。

13. 財務

- 13-1 短期および中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されている。 [B]
- 13-2 短期および中長期的に財務状況が安定している。 [A]
- 13-3 予算・収支計画の有効性および妥当性が保たれている。 [A]
- 13-4 予算編成が適切になされ、執行ルールが明確である。 [A]
- 13-5 適正な会計監査が実施されている。 [A]

現状・具体的な取組み／課題

財務上の問題はないものの、教職員への財務状況の周知が今後の課題です。

14. 法令遵守

- 14-1 法令遵守に関する担当者を特定している。 [A]
- 14-2 教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行っている。 [B]
- 14-3 個人情報保護のための対策を行っている。 [A]
- 14-4 関係省庁への届出、報告を遅滞なく行っている。 [A]

現状・具体的な取組み／課題

教職員のコンプライアンス意識を高めるため、個別に助言等を行ってきました。

一人一人が自覚をもって、コンプライアンス意識を高めるようにすることが大切ですが、同時に、研修をどのように行うべきか、検討を進めています。

15. 地域貢献・社会貢献

- 15-1 日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っている。 [B]
- 15-2 学生ボランティア活動への支援を行っている。 [B]
- 15-3 公開講座等を実施している。 [C]

現状・具体的な取組み／課題

共有スペースの清掃等を行ってきましたが、社会貢献・地域貢献のために、どのような取組をするべきか、今後の課題です。

どのような公開講座が実施できるのか、検討を進めます。